

決算分科会における事務事業評価説明資料

(環境厚生分科会)

対象事業名	火葬場等経費	担当部課	環境市民部 環境政策課
決 算 額	22,792,003円		
事務事業の目的	亀岡市営火葬場は、「墓地・埋葬等に関する法律」に基づき設置しており、全ての市民（市外者含む）の使用申請に対応し、火葬業務を行うとともに、火葬場施設及び火葬炉並びに炉関連施設の機能維持のための修繕を行い、適正な維持管理運用に努めます。		
事務事業の成果 (当初計画との比較)	市営火葬場は、火葬炉3基を備え、1日当たり6体の受け入れが可能です。火葬場は、元日を除き受入をしており、火葬件数は、829件でした。昨年度と比較して39件増加し、1日平均2.8件に対応しました。また、火葬場施設及び炉設備の機能維持を図るため、火葬炉設備耐火材等の修繕を行い、火葬業務を中断することなく、市民等の火葬使用申請に対応しました。		
事務事業の手法	市営火葬場は、市民生活には必要不可欠な施設として、市の独自事務にて運営しています。また、人生終焉の場としてふさわしい弔いが出来得ようご遺族、会葬者の意を踏まえ適確な対応に心がけています。 火葬業務を円滑に進めるために、火葬場施設、設備の日常点検を実施し、機能保持を図るために、直接火炎が当たり劣化が生じる炉内耐火材等は使用状況を見極めながら、計画的な修繕を行っております。		
今後(平成23年度)の方向性・取組み状況	現火葬場は、大規模改修から概ね10年が経過したことから、平成22年度に火葬場精密機能検査を行いました。この検査結果に基づき火葬炉等関連設備機器の整備や定期的な維持修繕を計画的にて行い、円滑な火葬場運営を図っていきます。		
そ の 他			

決算分科会における事務事業評価説明資料

（環境厚生分科会）

対象事業名	ごみ減量・資源化等推進事業経費	担当部課	環境市民部 環境事業課
決 算 額	52,074,420円		
事務事業の目的	市民、事業者と行政の協働によるごみの減量・資源化を推進するため、各種の補助事業などを実施しています。		
事務事業の成果 (当初計画との比較)	分別収集と集団回収への補助事業などにより、平成22年度における本市の資源化率は15.51%になりました。 これにより、燃やすごみでは1年間に約3,500トンが削減できており、約1億円の処理経費の削減につながっています。 また、ペットボトルの収集は、ステーション収集に比べ、大幅な経費の削減と環境負荷の低減（CO₂の削減）につながる拠点収集で実施しています。 各種啓発事業は、市民の環境意識の向上や環境にやさしい行動などに役立っているものと考えています。		
事務事業の手法	新聞や雑誌などの集団回収にお取り組みいただいている団体への補助、コンポストや生ごみ処理機を購入された各ご家庭への補助、市民と事業者、行政などで組織しています「クリーンかめおか推進会議」への補助などを行っているほか、拠点回収にご協力いただいている量販店からのペットボトルの引き取りや分別収集された空き缶のプレスなどの再資源化業務を行っています。		
今後(平成23年度)の方向性・取り組み状況	市民と事業者、行政などで組織しています「クリーンかめおか推進会議」を中心に、更なるごみの減量・資源化につながる取り組み（3R）の拡大を、市民や事業所に要請していくとともに、行政としては補助事業や啓発事業などにより、ごみの減量と再資源化の充実に努めていきたいと考えています。		
そ の 他	ペットボトルの収集や缶プレス製品の運搬は、一部を除いて「下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」に基づく合理化事業計画の代替業務の一つになっています。		

決算分科会における事務事業評価説明資料

(環境厚生分科会)

対象事業名	最終処分場維持管理経費	担当部課	環境市民部 環境事業課
決 算 額	31,230,360円		
事務事業の目的	埋立ごみを減容化、安定化させ、適正に埋立処分して施設の延命化を図るとともに、各施設を適正に維持管理して浸出水を処理し、安心安全な最終処分場の維持管理に努めた。		
事務事業の成果 (当初計画との比較)	関係法令に基づき、一般廃棄物の最終処分場として、適正に維持管理するとともに、埋立ごみの減容化、資源化により、施設の延命化に努めた。平成22年度末において、計画埋立量に対して11ヶ月の減量・延命を行なうことができた。 計画埋立量 21,985m³ 実績埋立量 16,859m³ 減量分 5,126m³ 浸出水処理水・観測井等の水質についても、法令で定められた水質基準値内であった。		
事務事業の手法	自己搬入されるごみについて、受付・監視員が適正なごみであるか点検、監視する。 埋立については、コンパクターにて、破碎、転圧を繰り返し、ごみ体積を減容、一定高さ(1層H=1.5m)に集積・転圧のうえ、即日覆土が必要な場合はセル工法でごみの飛散を防止、その後にブルドーザにて再度覆土、転圧し、サンドイッチ工法により埋立作業を行う。資源化物の混入度合いが多い場合は、搬入点検時に抜き取りを行い、埋立ごみの減量に努めている。 埋立地から発生する浸出水は、埋立地流末の原水ピットで集水を行い、ピット内ポンプにて、浸出水処理施設へ圧送する。送られてきた水は、流入調整設備にて、不純物、砂等を除去したのち、水量・水質を緩和して、処理の安定化と、水質の均一化、腐敗防止のため、空気攪拌する。次に生物化学的脱窒素処理により、有機性汚濁物質や窒素成分を分解・処理し、凝集沈殿処理により浮遊物質等を凝集沈殿、除去する。高度処理設備において、残った浮遊物質を砂ろ過塔で、CODや色素成分を活性炭吸着塔で除去し、さらに、消毒放流設備で、紫外線滅菌処理、PH調整を行い、調整池を経て河川放流する。		
今後(平成23年度)の方向性・取り組み状況	埋立ごみの減容化を図るとともに、埋立地・浸出水処理施設の適正な維持管理に努め、安心・安全な施設として維持管理に努める。 今年度から、埋立ごみの安全処理と減量化を図るため、財団法人亀岡市清掃公社とともにエアゾール缶の再資源化処理の試行を開始し、8月までに約5トンのアルミ・鉄類を再資源化した。		
そ の 他	医王谷エコトピアから継続使用している重機等の大型機械設備の計画的な更新が、今後に必要な。		

決算分科会における事務事業評価説明資料

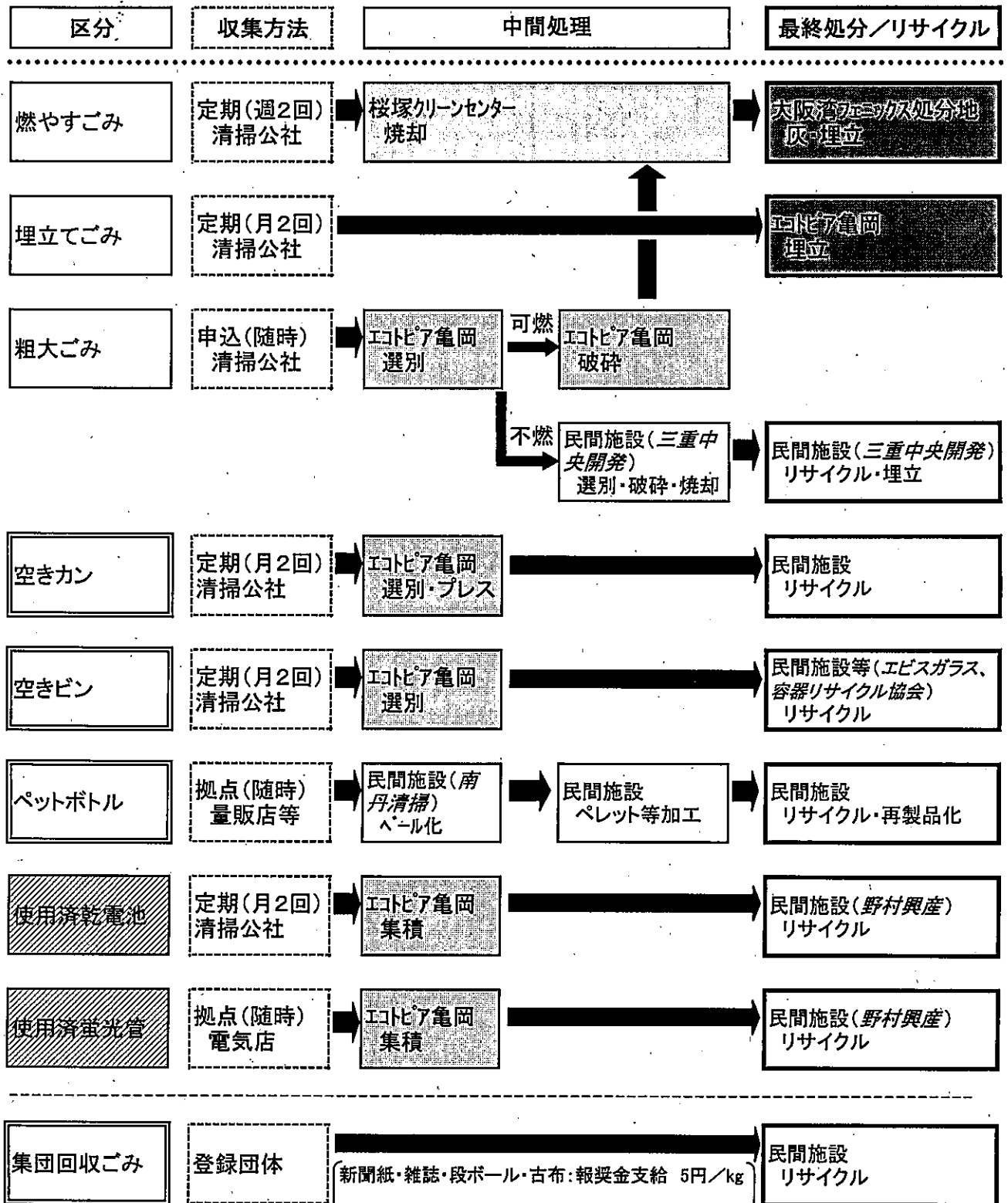
(環境厚生分科会)

対象事業名	収納率向上特別対策事業費（国保特別会計）	担当部課	環境市民部 保険医療課
決 算 額	25,644,007円		
事務事業の目的	国民健康保険事業の最も基幹的な財源である保険料の収納については、国民健康保険財政の健全な運営を図るために重要なことである。 国民健康保険事業は、被保険者の相互扶助により成り立っていることから、保険料としての財源の確保及び負担の公平性の確保などの観点から、国民健康保険料の収納率向上のための取り組みを進める。		
事務事業の成果 (当初計画との比較)	経済状況の低迷等の影響により、国民健康保険料の納付を取り巻く環境は非常に厳しい状況ではあるが、職員と未納専門徴収嘱託員が連携を図りながら、現年度分保険料未納世帯に早期から納付指導等を実施し、翌年度への滞納保険料額を減少させるための対策等に積極的に取り組んだ結果、平成22年度現年度分の収納率は、昨年度を0.5%上回る92.45%となった。		
事務事業の手法	○ 未納専門徴収嘱託員(12名)による滞納整理、臨戸訪問により、滞納保険料の納付相談・納付指導を実施 ○ 口座振替の勧奨 ○ 未納保険料確認通知書を送付し、滞納保険料の確認と納付の催告を実施 ○ 夜間臨戸徴収の実施 ○ 夜間・休日納付窓口の開設 ○ 短期被保険者証交付及び更新時に、納付が芳しくない世帯の呼び出しを行ない納付相談・納付指導を実施。その指導後も納付が無く、悪質滞納者と判断した時は資格証明書を交付		
今後(平成23年度)の方向性・取り組み状況	現年度分保険料のみを滞納している世帯に対し、早期から納付指導を行うことにより、滞納世帯の増加を抑制する。 居所不明世帯や社会保険加入などにより、亀岡市国民健康保険の資格喪失の手続を怠っている世帯の整理を行い、今後の保険料滞納額の減少に向けた取り組みを実施する。 平成23年4月からコンビニエンスストアでの収納を開始し、納付しやすい環境を整備して納付方法の拡大を図る。		
そ の 他			

ごみ処理と減量化の状況

環境事業課
23/5/27環境対策特別委員会説明資料
23/8/22一部修正

1 ごみ収集・処理の体系(家庭系)



□ 資源ごみ ▨ 有害ごみ

2 年度別ごみ処理量

(単位：t)

区 分	燃やすごみ	前年比	埋立ごみ	前年比	粗大ごみ	前年比	資源ごみ	前年比	有害ごみ	前年比	合 計	前年比
H14年度	27,623.66	-	4,070.38	-	273.75	-	1,324.63	-	6.58	-	33,299.00	-
H15年度	26,157.51	△5.3%	2,563.70	△37.0%	417.96	52.7%	3,657.33	176.10%	12.73	93.5%	32,809.23	△1.5%
H16年度	24,653.59	△5.7%	2,804.87	9.4%	1,706.83	308.4%	4,348.99	18.91%	12.78	0.4%	33,527.06	2.2%
H17年度	24,085.04	△2.3%	2,798.81	△0.2%	469.37	△72.5%	4,558.00	4.81%	15.42	20.7%	31,926.64	△4.8%
H18年度	23,749.04	△1.4%	2,502.98	△10.6%	361.84	△22.9%	5,060.92	11.03%	16.25	5.4%	31,691.03	△0.7%
H19年度	23,458.77	△1.2%	2,373.91	△5.2%	437.84	21.0%	5,053.71	△0.14%	16.53	1.7%	31,340.76	△1.1%
H20年度	22,411.77	△4.5%	2,015.64	△15.1%	314.14	△28.3%	4,907.23	△2.90%	14.71	△11.0%	29,663.49	△5.4%
H21年度	21,826.68	△2.6%	1,989.00	△1.3%	306.33	△2.5%	4,600.51	△6.25%	13.76	△6.5%	28,736.28	△3.1%
H22年度	21,425.62	△1.8%	2,359.31	18.6%	423.97	38.4%	4,652.84	1.14%	14.23	3.4%	28,875.97	0.5%

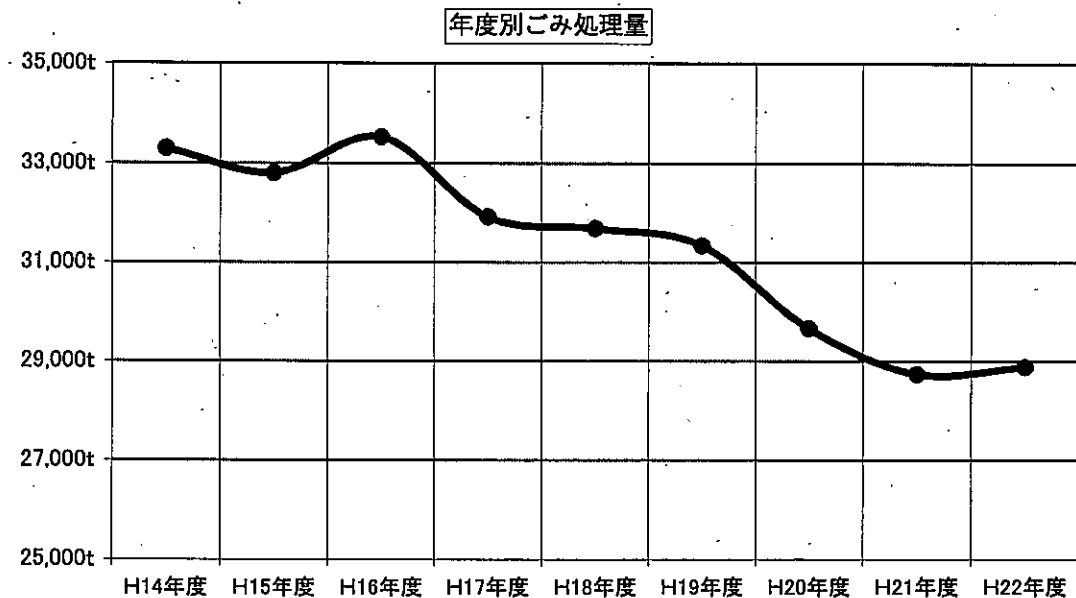
※1 燃やすごみ＝家庭系ごみ＋事業系ごみ＋その他ごみ

※2 埋立てごみ＝家庭系ごみ＋事業系ごみ＋その他

※3 資源ごみ＝カン＋ビン＋ペットボトル＋集団回収

※4 粗大ごみ＝家庭系ごみ＋事業系ごみ＋その他ごみ

※5 有害ごみ＝使用済乾電池（収集量＋持込み量）
＋使用済蛍光管（回収量＋持込み量）



3 減量・資源化の取組

(1) 資源化量

(単位：t)

区 分	カ ン	ビ ン	ペ ッ ト ル	集団回収	不 燃 性 粗大ごみ	有害ごみ	合 計	H14年度比	資源化率
H14年度	232.48	715.38	40.71	58.22	-	10.01	1,056.80	-	3.17%
H15年度	332.52	764.21	78.49	2,308.64	108.57	9.97	3,602.40	240.88%	10.98%
H16年度	300.57	684.77	105.17	3,019.91	106.45	10.00	4,226.87	299.97%	12.61%
H17年度	297.82	677.45	102.48	3,258.72	107.54	15.00	4,459.01	321.94%	13.97%
H18年度	266.88	685.21	120.75	3,757.08	106.53	23.20	4,959.65	369.31%	15.65%
H19年度	230.25	662.48	131.90	3,756.42	106.57	15.00	4,902.62	363.91%	15.64%
H20年度	214.27	628.00	137.28	3,678.19	74.01	15.67	4,747.42	349.23%	16.00%
H21年度	217.06	614.76	136.64	3,397.77	58.18	11.87	4,436.28	319.78%	15.44%
H22年度	199.56	618.70	151.00	3,441.74	50.94	16.95	4,478.89	323.82%	15.51%

※1カン・ビン＝販売量＋指定法人ルート分

※2有害ごみ＝使用済乾電池＋使用済蛍光管（再生資源化量）

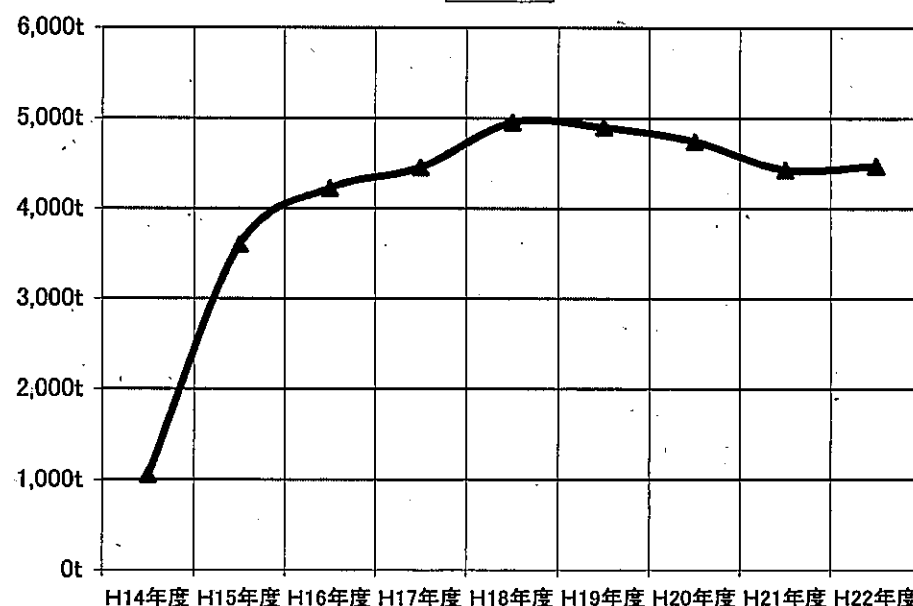
注）有害ごみは、再生資源化量を計上しているため、
2.年度別ごみ処理量の数値とは異なる。

※3資源化率＝資源化量÷年間ごみ処理量

○ これまでの主な施策

年 代	主 な 事 柄
昭和59年度	・ 有害ごみとして使用済み乾電池分別収集開始
平成 2年度	・ 資源ごみ（カン類・ビン類）分別収集開始
平成 5年度	・ 集じん箱等設置事業補助金交付要綱制定
平成 9年度	・ ごみ減量・リサイクル機器購入費補助金交付要綱制定
平成12年度	・ ペットボトルの拠点回収開始
平成14年度	・ 資源ごみ集団回収報奨金制度創設（平成15年1月）
平成15年度	・ 不燃性粗大ごみ有料戸別回収開始 ・ 家庭ごみ有料指定袋制開始（9月）
平成18年度	・ 小学校ペットボトル回収開始
平成20年度	・ 使用済み蛍光管拠点回収開始（12月）

資源化量



(2) ごみ減量・資源化推進事業補助金

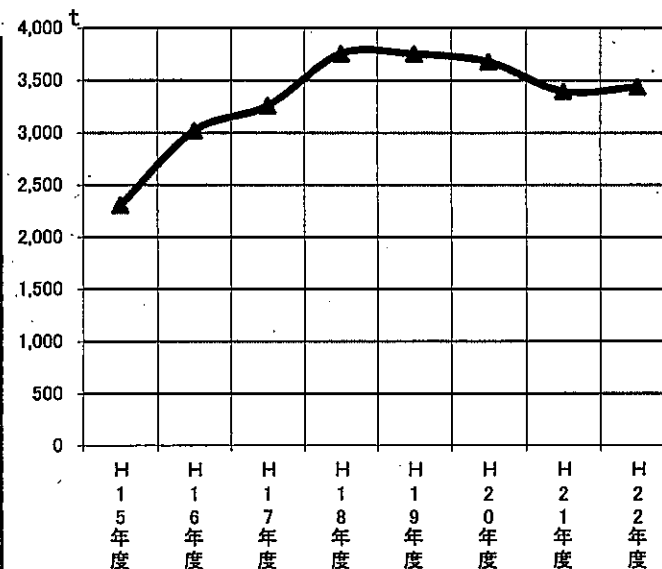
区 分	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	合 計
	基数 補助額	基数 補助額	基数 補助額	基数 補助額	基数 補助額	基数 補助額	基数 補助額	基数 補助額	基数 補助額	基数 補助額
生ごみ処理容器	13基	48基	24基	24基	26基	26基	31基	19基	16基	227基
	36,900円	125,200円	69,600円	99,400円	85,300円	106,400円	114,700円	67,300円	71,400円	776,200円
生ごみ処理機	56基	356基	72基	62基	59基	40基	17基	18基	18基	698基
	1,093,700円	10,409,600円	1,283,800円	1,226,600円	1,170,400円	800,000円	340,000円	360,000円	360,000円	17,044,100円
集じん箱等設置補助	27基	55基	16基	9基	11基	22基	10基	12基	10基	172基
	1,332,000円	2,677,000円	789,000円	450,000円	507,000円	1,043,000円	484,800円	576,000円	496,000円	8,354,800円
計	2,462,600円	13,211,800円	2,142,400円	1,776,000円	1,762,700円	1,949,400円	939,500円	1,003,300円	927,400円	26,175,100円

(3) 資源ごみ集団回収報奨金（平成15年1月から）

資源ごみ（新聞紙・雑誌・ダンボール・古布）を集団回収（要団体登録）した場合に報奨金を交付

区 分	交付団体	対象品目				回収量	報奨金 交付額
		新聞紙	雑 誌	ダンボール	古 布		
H15年度	延べ276	1,483,250kg	466,250kg	243,465kg	115,675kg	2,308,640kg	16,160,480円
H16年度	延べ358	1,912,860kg	603,014kg	349,490kg	154,547kg	3,019,911kg	21,139,377円
H17年度	延べ385	2,074,570kg	632,380kg	393,500kg	158,274kg	3,258,724kg	18,359,898円
H18年度	延べ403	2,347,488kg	745,225kg	468,594kg	195,770kg	3,757,077kg	18,785,385円
H19年度	延べ411	2,329,410kg	737,560kg	486,940kg	202,507kg	3,756,417kg	18,782,085円
H20年度	延べ417	2,266,100kg	726,310kg	487,910kg	197,870kg	3,678,190kg	18,390,950円
H21年度	延べ424	2,068,890kg	665,720kg	467,250kg	195,910kg	3,397,770kg	16,988,850円
H22年度	延べ436	2,071,110kg	684,970kg	483,040kg	202,620kg	3,441,740kg	17,208,700円

資源ごみ集団回収



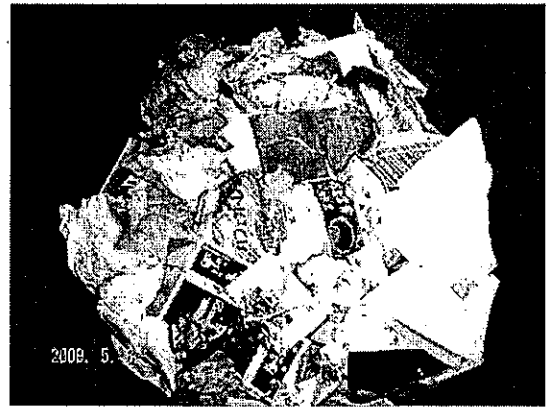
年度別ごみ質分析結果表

年 度		H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
項 目											
ごみの種類組成 (%)	湿ベース	紙類	49.10	42.51	42.20	41.56	39.12	41.80	33.44	35.41	40.46
		繊維類	4.02	8.36	9.69	12.80	8.30	2.04	6.79	6.00	7.38
		ビニール、プラスチック	19.30	16.56	17.05	13.20	15.19	17.71	23.45	22.54	22.72
		ゴム類	0.00	0.00	0.09	0.08	1.76	0.00	0.00	0.00	0.00
		皮革類	0.00	0.00	0.00	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00	0.00
		木、竹、わら類	6.62	9.97	8.89	9.69	5.67	12.08	11.62	3.01	6.88
		ちゅう芥類	18.44	20.65	14.08	16.02	22.61	19.01	22.12	28.75	19.25
		可燃性雑物類	1.88	1.61	4.74	3.50	5.39	5.71	2.03	2.23	1.69
		金属類	0.41	0.31	0.89	1.90	0.70	0.83	0.37	0.16	0.13
		ガラス、陶器類	0.08	0.00	0.56	0.60	0.00	0.00	0.19	0.00	0.00
		土砂、石類	0.12	0.04	1.84	0.66	0.53	0.83	0.00	1.90	1.49
	乾ベース	紙類	55.35	48.68	41.29	41.61	42.93	48.51	38.65	45.96	45.12
		繊維類	5.65	10.55	10.52	16.58	9.58	3.24	7.64	6.74	8.33
		ビニール、プラスチック	22.81	18.57	21.19	16.01	18.23	21.33	30.12	27.51	26.25
		ゴム類	0.00	0.00	0.15	0.14	2.84	0.00	0.00	0.00	0.00
		皮革類	0.00	0.00	0.00	0.00	1.12	0.00	0.00	0.00	0.00
		木、竹、わら類	4.61	8.82	9.22	9.50	5.49	9.20	10.60	2.85	6.32
		ちゅう芥類	8.99	11.11	8.53	7.73	14.05	10.85	9.81	11.51	10.35
		可燃性雑物類	1.60	1.68	4.33	3.56	4.00	4.49	2.28	1.85	1.43
		金属類	0.67	0.50	1.44	2.92	0.93	1.33	0.64	0.25	0.20
		ガラス、陶器類	0.13	0.00	1.08	1.03	0.00	0.00	0.27	0.00	0.00
		土砂、石類	0.19	0.07	2.26	0.86	0.85	1.06	0.00	3.33	2.01
単位容積重量 (kg/m³)		239.5	205.3	170.5	176.0	154.8	159.0	215.0	163.5	164.5	
生ごみの三成分	水分 (%)	42.34	38.43	49.29	43.75	45.42	43.45	42.92	41.22	33.48	
	灰分 (%)	5.49	5.83	6.79	6.90	5.42	6.07	5.37	6.94	8.89	
	可燃分 (%)	52.17	55.74	43.92	49.36	49.17	50.48	51.70	51.85	57.64	
低位発熱量	(cal/g)	2,095	2,278	1,680	1,960	1,940	1,980	2,070	2,088	2,395	

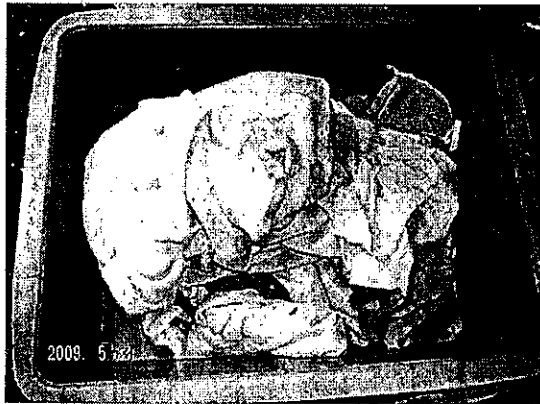
搬入量	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
合計	27,877	26,465	25,526	24,434	24,035	23,799	22,658	22,078	21,806
紙	13,686	11,251	10,772	10,155	9,402	9,947	7,576	7,817	8,822
プラスチック	5,379	4,383	4,351	3,225	3,651	4,214	5,312	4,977	4,955
厨芥類	5,139	5,465	3,594	3,914	5,433	4,525	5,013	6,347	4,198



搬入ごみ



紙類



繊維類



ビニール・プラスチック類



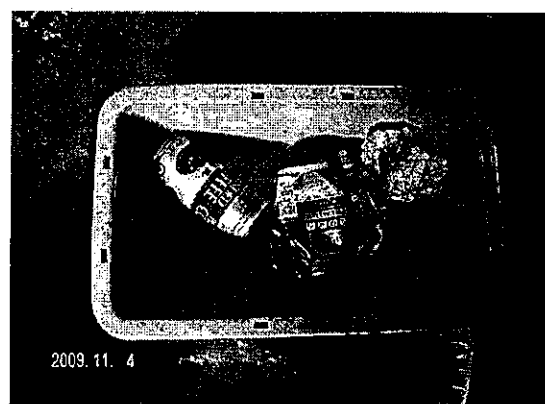
木、竹、わら類



ちゅう芥類



可燃性雑物類



金属類